

～日中関係を中心に～ 日中の戦略的互惠関係

・「戦略的互惠関係」とは何か、最近の進展状況など → (高村正彦 外務大臣)

○委員長 (鴻池祥肇君) 次に、加納時男君の質疑を行います。加納君。

○加納時男君 自由民主党の加納時男でございます。

本日は、日中関係を中心に質疑をさせていただきたいと思っております。

[委員長退席、理事伊達忠一君着席]

最近、日中関係はその関係、非常に改善が目覚ましいと思っております。首脳間の往復、これが活発になりました。それからまた、貿易額で言いますと、輸出と輸入、貿易の往復ベースで見て、中国にとって日本は世界で第三位の国となり、日本にとっては日中貿易が往復で見るとアメリカを抜いて最近では第一位になったというふうな統計もございます。また、昨年十二月には日中間のハイレベルの経済対話も行われております。昨年は、日中国交正常化三十五周年、今年は平和友好条約三十周年の年に当たりますので、これを記念した周年行事も活発に行われ、また計画されているのは喜ばしいことだと思っております。もちろん、二国間関係ですから、いいことばかりではなく、様々な問題が発生したり、あるいはまだ未解決の問題が残っているのも事実でございますが、なべてこの関係が良くなってきたということは事実だと思っております。

その中で使われているキーワードは、戦略的互惠関係でございます。

外務大臣にお伺いしたいと思っておりますが、大臣はこの戦略的互惠関係、これは一体どういうイメージであり、具体的にどのようにお考えになり、どのように発展してこられたか、発展してきたか、この辺をお聞かせいただけたらと思っております。

○国務大臣 (高村正彦君) 戦略的互惠関係というのは、いわゆるウイン・ウインの関係と申しますか、両方が勝つ、両方にとっていいと、単に日中両国だけでなく、両国が協力して地域全体にも貢献しよう、世界に対しても貢献しよう、具体的には、具体的というか抽象的に言えばそういう関係だと、こういうふうに思っております。

○加納時男君 おっしゃるとおりだと思います。まさにウイン・ウインの関係だと思いますが、別に字引を引いて議論するような話でもないと思うんですが、私の理解では、戦略的というのは言わば戦術的に対立する概念であって、戦術的が短期的、局地的なもの、戦略爆撃、戦術爆撃で連想するわけですが、戦略的というのはむしろ大局的な長期的なものであり、戦略的互惠関係とはそういう長期的な両国の国益を実現するようなものではないだろうか。

具体的に今考え、展開していくと、例えば相互に補完する関係、日本の強みである資本とか技術、中国の得意なところである労働力とかマーケット、こういうものを相互に補完し合っていくということも重要な、今まさに大臣が言われたウイン・ウインかなとも思います。それからまた、共同開発も大事だと思います。さらには、政治的に非常に機微に触れるような事項については、というか国民感情にとって非常に機微な事項については、お

互いに心配りをしながら付き合っていくこともこの戦略的互惠関係かな、なんて思っているところでございますが。

(別質問へ続く)